



きんさい柳井  
KINSAI YANAI

赤と白のすっきりとした胴体にパッチリと黒い目を開いたおどけた顔の金魚ちょうちん。割竹で組んだ骨組みに和紙を貼り、赤と黒の染料で色付けして作られ、白壁の町並みにも彩を添えています。大きなしっぽの赤い金魚は、どこかユーモラスで人々に愛されています。

愛嬌のあるその姿は、日本全国、ひいては世界の舞台でも人気を獲得し、山口県の代表的な民芸品として成長しました。柳井観光記念のお土産として、またインテリアとしても多くの方から好評です。

毎年8月になるとJR柳井駅から白壁の町並み一帯に数千個の金魚ちょうちんが飾られ、灯りを宿した幻想的な姿は柳井の夏の風物詩となっています。

## 金魚ちょうちんの由来

### 青森県弘前市 金魚ねぷた

※江戸時代に津軽藩で養殖されていた金魚、「津軽錦」をイメージして作られたといわれる金魚型のねぷた。



幕末の頃、北前船を通じて柳井の商人が津軽藩(青森県)を訪れた際、「金魚ねぷた」にヒントを得て、金魚をかたどり、柳井の伝統織物「柳井縞」<sup>やないじま</sup>の染料を用いて創始したと言われています。夏祭りを迎えると子供たちは浴衣を着て、このちょうちんに火を灯し、宵の町へと出かけていったそうです。

土地の人に親しまれ、戦後独自の技法を加えて今日の美しい金魚ちょうちんが完成しました。

現在では、青森県弘前市と柳井市の間で「金魚ねぷた」と「金魚ちょうちん」を通じた交流も行われています。

### 山口県柳井市 金魚ちょうちん

